

商いの新しいものさし

第173回

㈱商い創造研究所
代表取締役

松本 大地

イトーヨーカドー 量販業態の巻き返し

総合スーパーの横綱格であるイトーヨーカドー(IY)が33店の閉店を決定した。店舗数は2015年の182店をピークに年々下がり続け、25年3月時点では92店と最盛期のほぼ半分となった。

商品を大量に仕入れて、低価格で大量販売する量販店業態を米国で開発したシアーズをモデルに、日本では米国で取り扱わなかった大型食品売

80年代初頭までは全米

第1位の小売販売チェーンとして君臨したシアーズは、デザイン性や品質の高い専門性を求める消費者のニーズとの溝が広がったことが要因で、18年に連邦破産法11条を申請、同業態のJCPエンターテインメントも破綻した。

本連載で何度も触れているが、「業態は時代と共に変化を遂げていく宿命」にある。今や百貨店業態はインバウンドの恩恵を受けているが、地方では



次世代型子ども関連売り場トイロパーク



明るく親しみやすさが加わった食品売り場

百貨店業態の閉店が続く。SC業態も、コンビニ業態も飽和状態であることは明白である。では量販店はどうかというのか、この数カ月いくつかのIYの売り場を訪ねてみたところ、大きな変化が起きていた。以前は横綱相撲を取っていた感覚があったが、現場での体験価値を深掘りした新たな取り組みの様相に期待感を抱いた。

大きくは2つの取り組みを紹介したい。1つはIYの子供関連売り場をリブランディングした「TOYLO PARK(トイロパーク)」の誕生である。トイロパークは21年4月にIY大和鶴間店から始まり、グランツリー武蔵小杉、ららぽーと横浜、アリオ亀戸、アリオ北砂などの大きなモールにて、次々と展開を続ける。

筆者がギャザリングによるSC運営コンサルティングを続けてきた「あべのキューズモール」では、IYは最大の核店舗だが食品売り場の上層階の活性化を望んでいた。今年2月28日に子ども関連売り場をトイロパークに業態転換したところ、食品売り場から上層階への回遊や、トイロパークを目的にファミリー客が訪れるようになった。

サカス風の環境修景によって730坪の日常の売り場が非日常的な劇場へと変わり、デジタル技術を駆使した遊び場も併設された。ディズニーマンやサンリオ、アンパンマンなどのキャラクター、自由に遊びができるトミカプラレール、LEGOコーナー、砂場遊びのサンドエリアなどを展開する。ランドセルや文房具、運動着までがその雰囲気の中で購入できる、夢のあるワールドを作り上げた。